

災害時の外国人のための 「やさしい日本語」

令和元年度「文化庁日本語教育大会・京都大会」
日本語教育テーマ別実践報告会
【第2分科会】「やさしい日本語」で発信！

水野義道

mizuno@kit.jp

2019年10月13日

1. 「減災のための『やさしい日本語』」 に関する研究活動の出発点

1995年1月17日 阪神・淡路大震災

「日本語を母語としない人々のための緊急時言語
対策に関する研究」

（「『緊急時言語対策』の研究について」

真田信治, 『月刊言語』25-1, 1996年1月号）

- ① 大阪大学が中心となって、被災した外国人がどのようにして情報を得たかについて調査した。
- ② 英語・中国語・韓国語などの外国語による情報の提供とともに、「やさしい日本語」による情報提供が必要であるという提言が行われた。

外国人被災者にとっては、それぞれの母語による情報提供が行われることが理想である。しかし、以下のような事情から、「やさしい日本語」による情報提供の有効性が主張された。

- 1) 多言語対応の場合、提供できる言語の数に限度がある。
- 2) 災害時に多言語対応をするための人員の確保が難しい可能性がある。

3) 「通常の日本語」は理解できないが、「やさしい日本語」は理解できる外国人が存在する。

4) 「やさしい日本語」による情報は、一般の日本人も理解可能であり、発信する情報の内容を担当者を確認できる。

- ③ その後、弘前大学の佐藤研究室を中心として「やさしい日本語」の具体化と使用法に関する研究を行ってきた。

「災害時の日本語」研究グループ
(減災のための「やさしい日本語」研究会)
弘前大学人文学部社会言語学研究室

2. 「減災のための『やさしい日本語』」の概要

(1) 『災害時に使う外国人のための日本語案文 ーラジオや掲示物などに使うやさしい日本語表現ー』

1999年3月「災害時の日本語」研究グループ

- ① 災害時に使用されることを想定した「やさしい日本語」による案文を作成した。
- ② 「やさしい日本語」による案文の構文・語彙・読上げ方・表記法・掲示物の表示法について提案した。
- ③ 対象は初級修了程度の日本語学習経験のある外国人を想定した。

(2) 『増補版・災害が起こったときに外国人を
助けるためのマニュアル』(2013)

(=『災害が起こった時に外国人を助けるためのマニュアル
(弘前版)』(1999)『新版・災害が起こった時に外国人を
助けるためのマニュアル』(2005)の改訂版)

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/zouhomanual-top.html>

弘前大学人文学部社会言語学研究室

減災のための「やさしい日本語」研究会

- ① 災害時に用いることを想定した放送用案文および
地域の事情に即した内容のポスターのひな形を
提案した。

(3) 『「やさしい日本語」が外国人の命を救う
—情報弱者への情報提供の在り方を考える—』
(2007)

減災のための「やさしい日本語」研究会

- ① 「やさしい日本語」による案文が外国人にとって理解しやすいかどうかを確認するための調査を行った(2005年10月:弘前市)。
- ② 研究会のメンバーは日本語研究者, 社会調査・統計学研究者, 弘前市を中心とした消防・行政サービス・コミュニティFM・医療関係者を含む。

- ③ 「やさしい日本語」によるアナウンスの聴取実験を行った。「普通の日本語」と「やさしい日本語」による放送を聞く二つのグループに分け、どちらがより良く理解できるかを調査した。
- ④ 聴取実験協力者：
外国人留学生 88人；日本語レベル旧2級，旧3級
日本人小学生 30人；低学年
- ⑤ 結果は、「やさしい日本語」が外国人にとっても日本人の低学年の小学生にとっても有効であることを示した。

(4) 『「やさしい日本語」の構造－社会的ニーズへの適用に向けて－』(2009)

佐藤和之編

- ① 各地の市民団体・地方公共団体が「やさしい日本語」による災害時の情報提供に注目するようになり、研究グループのメンバーが「やさしい日本語」の説明や、「やさしい日本語」による文章を作成するワークショップを行うようになった。

- ② 一般の日本人が「やさしい日本語」で文章を作る際に利用できるコンピュータ・ソフトを開発する計画を立て、その実現のために「やさしい日本語」の語彙・文法の範囲を明確に限定することが必要になった。
- ③ 「緊急コメント」を対象としてテキストの「やさしい日本語」化を行い、「やさしい日本語」の特徴を明確にすることを試みた。

(→ やんしす: やさしい日本語支援システム 2008年)

3. 「やさしい日本語」とティーチャートーク

「やさしい日本語」は、日本語母語話者が情報の受け手である外国人の日本語理解能力に合わせて母語の語彙・文法等をコントロールするという点で、日本語を教える日本語母語話者のティーチャートークと共通する部分がある。初級段階からの日本語教育を行う過程で習得するこのティーチャートークの知識と技術は、「やさしい日本語」による情報発信の基礎として重要である。